

③-1) 竹田市地方創生TOP総合戦略取組実績及び今後の具体的な計画

【資料2】

No.	◆総合戦略記載事項	◆取組実績	◆今後の計画
	1. ひとを大事にし、郷に生きる人間力を育む		
	(1)結婚から子育てまで切れ目のないきめ細かい支援		
1	①結婚活動の支援 ・民間と連携した出会いから新生活までの支援(婚活事業推進) ・県及び他自治体と連携した情報発信の強化	① ア)婚活事業への支援(元気づくり支援事業:九州アルプス商工会)(KONT21)	・婚活支援事業委託実施予定
2	②保育サービスの充実 ・教育・保育の一体的な提供 ・延長保育、病児保育事業の拡充 ・一時預かり事業の拡充と利用促進	② ア)幼保連携型認定こども園(なおいりこども園) イ)延長保育の実施 ・短時間認定児の延長保育を市内全保育所で実施 ・標準時間認定児の延長保育を市内5保育所で実施 ウ)病児保育事業 : H27実績27名(H26実績12名)	・「荻保育所」の認定こども園への移行推進 ・H28年度は6保育所で実施
3	③地域ぐるみで子育て一番宣言 ・地域子育て支援拠点事業の拡充 ・「放課後子ども総合プラン」に沿った児童クラブと子ども教室の連携強化 ・子育て世帯包括支援センターの設置及び事業推進 ・各地域らしさに応じた子育て支援事業の強化と推進 ・子育て支援ネットワークの構築	③ ア)地域子育て支援拠点訪問 : 年6回 イ)子育て支援者研修会の実施 ウ)継続看護連絡票に基づく早期対応の実施 : 5件 エ)竹田っ子すこやか広場(南部幼稚園併設) オ)子育てひろば夢とんぼ(竹田幼稚園併設) カ)子育てフェスタby「夢苞」の開催(H27.8) キ)子育て講演会の開催(H28.3) ク)菅生地域で児童クラブの開設(H28~) ケ)子育て包括支援センター開設に向けたニーズの把握 コ)子育て関係事業者で組織する「竹田市教育保育協議会」を設立	・子育てフェスタの継続実施 ・子育て支援事業の周知及びニーズの把握 ・城原っ子クラブの城原小への移転 ・H29開設に向けニーズの把握や行政窓口一本化の検討 ・放課後児童クラブや私立幼稚園等への加入促進
4	④子育てと仕事の両立支援 ・男性の育児参加推進及び啓発事業 ・女性の再就職など子育てしやすい就労環境整備の推進 ・ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた機運の醸成 ・各種助成制度等、両立支援に関する情報の周知	④ ア)各種届出時に制度の周知 イ)男性育児参加推進のための冊子を市窓口及び子育てに関わる事業所に設置 ウ)0歳児の利用定員の拡充 エ)「たけた子育て情報パンフレット」作成	・3号認定の児童利用定員の拡充 ・保育士処遇改善を推進
	(2)夢に向かって挑戦する子どもの育成		
5	①竹田郷土学の紐とき事業 ・全ての小・中学校による竹田郷土学研究の導入と実践 ・地域(公民館等)と学校の連携による郷土学、先人顕彰の推進	① ア)各学校での年間学習計画の作成と実践 イ)竹田郷土学研究校(城原小、直入小、直入中)の研究成果の発表会	・竹田郷土学研究校の指定(竹田小、祖峰小、竹田中)
6	②竹田市教育のまちTOP<SUN3>運動の推進と実践 ・学力向上推進校の研究推進 ・東京大学との連携による協調学習の推進 ・交流学习(T授業:竹田型複数校合同授業)の充実強化 ・小中連携の更なる推進	② ア)竹田市学力向上研究校(祖峰小、宮城台小、菅生小、緑ヶ丘中)の研究成果の発表会 イ)強調学習研究校(久住小、久住中)の研究成果の発表会 ウ)竹田市全小中学校でのT授業の実施	・竹田市学力向上研究校の指定(菅生小、白丹小、城原小) ・協同学習研究校の指定(南部小、竹田南部中) ・小中連携研究校の指定(都野小、都野中)
7	③地域とともにある学校づくり ・「開かれた学校」・「地域で守る学校」づくりの推進と支援	③ ア)目標協働達成モデル校(都野小)の研究成果の発表会	・全小中学校で保護者とともに取り組む目標協働達成の取組
	(3)誰もが安心して暮らせる地域医療体制の確立		
8	①安心して子育て(妊娠・出産)できる環境づくり ・周産期医療機関との連携強化 ・妊婦健診費用の負担軽減 ・不妊・不育症治療等の助成の拡充 ・予防接種事業・子ども医療費助成制度の充実 ・子どもの心と身体の成長・発達の支援	① ア)産後うつスクリーニング実施依頼 イ)医療機関とのカンファレンス実施 ウ)妊産婦健診の受診券交付 エ)無料妊婦歯科検診の実施(年4回) オ)不妊・不育症治療等の市独自支援実施 カ)市独自予防接種事業(H27新たにロタウイルスを追加) キ)子育て相談会(年9回)、子育て講演会 等の実施	・子どもの医療費助成拡大(H28~)小中学生の通院・歯科・調剤
9	②地域医療体制の整備・充実 ・地域医療体制の充実支援 ・救急医療体制の強化	② ア)地域医療体制の整備・充実に向け県・市・市消防本部・医師会・大久保病院との協議を実施	・H28年竹田医師会病院、大久保病院が連携し二次救急医療の開始 ・H28年耳鼻咽喉科の開業 ・市内医療機関が当番制による休日、夜間診療開始

No.	◆総合戦略記載事項	◆取組実績	◆今後の計画
	(4)健康一直線～市民総参加で健康寿命を延ばすまちづくり		
10	①健康づくり組織の育成と支援 ・愛育保健推進員、母子保健推進員、食生活改善推進員、竹田しゃんしゃん会等、市民主体の健康づくり組織の活動育成支援 ・地域で活動する自主的健康づくり組織の再編や人材育成支援	① ア)愛育推進員活動(年60回)、母子保健推進員活動(年5回)、食生活改善推進活動(年20回)、竹田しゃんしゃん会(年54回)他 イ)同じ目的をもって活動する組織の統合について協議 ※万歩会・アクティブ竹田会	・H28統合を予定
11	②健康増進と予防活動の充実 ・健診体制の更なる充実と受診促進 ・疾病予防と重症化予防対策の強化 ・健康増進の情報提供とネットワーク化による市民の健康意識の向上	② ア)詳細健診項(検査基準により受診者を特定)の一部希望受診へ切り替え イ)保健師によるワンポイント指導の実施 ウ)宿泊型新保健指導試行事業の実施 エ)市報やTCT、HPを活用し健康づくり組織の学習会など情報提供	
12	③スポーツ・レクリエーション活動の充実 ・健康をキーワードにしたスポーツ組織の育成	③ ア)健康づくり組織 竹田しゃんしゃん会の活動支援	
	(5)安心と充実のシニアライフの支援		
13	①元気な高齢者の活躍の場づくり ・集う場(公民館等)の充実 ・地域文化伝承活動、ボランティア活動の支援 ・各種サロンの立ち上げ支援及び指導者の育成	① ア)新規サロン立上げ(H27、新規12 復活1) 自治会説明、研修会の開始等 イ)竹田ヘルスフィットネスインストラクターの養成(H27年18名)	
14	②高齢者が自立した生活を継続できる地域づくり ・竹田市型地域包括ケアシステムの実現(17地区社協を単位とした見守り支援強化等) ・知識や経験を活かした生きがいづくり ・竹田市地域包括支援センターを核とした包括的支援事業推進と体制整備の強化	② ア)高齢者安心ネットワーク登録(H26、27年126人登録) イ)各種ボランティア活動の支援(しゃんしゃん会、食生活改善推進協議会、傾聴33会、竹田ほほえみ会、しゃぼんだま会 他)	・介護保険法改正に伴い、社会保障充実事業の実施 (地域ケア会議、在宅医療・介護連携推進事業、認知症施策推進事業) ・介護予防、日常生活支援総合事業の完全実施
	2. 技の集積と地域経営力を高め、しごとを創出する		
	(1)竹田クリエイティブ・シティ構想の実践(新産業創出)		
15	①「創造的人材」の集積・拠点整備 ・アーティストinレジデンスの推進 ・拠点となるコワーキングスペースの整備 ・ヒューマンプロジェクト(技の集積)の推進	① ア)石村由起子トークイベントによる人材育成の取り組み イ)城下町(新町)に拠点施設を整備	・利用者:2名(音楽関係者) ・城下町拠点施設の利活用を図る
16	②TSG「竹田総合学院」構想の実践 ・インキュベーション型工房の支援 ・作家、工芸家の起業・独立支援	② ア)利用者:11名(うち地域おこし協力隊6名) 工房の増室	・利用者:16名(うち地域おこし協力隊11名) ・地域おこし協力隊による城下町への進出
17	③民間や大学との連携による起業・創業の推進 ・産官学金労言連携によるベンチャー企業の育成 ・起業支援、起業家育成支援 ・創業支援、セミナー、相談機能の拡充 ・クラウドファンディングの活用推進	③ ア)金融機関と連携した「食品産業地域連携推進事業」の実施 イ)歴史文化資源活用型起業支援 3件 起業家育成支援 3件 ウ)田舎暮らしセミナー(相談会)を東京、京都、横浜で開催。 合同企業面接相談会開催	・金融機関と連携した「ものづくり産業地域連携推進事業」の実施 ・田舎暮らしセミナー(相談会)、合同企業面接相談会開催予定
	(2)地域特性にあった企業の育成・集積		
18	①ヘルスケア産業の創出と振興 ・温泉療養や予防医学に関する企業誘致や関係研究機関との連携 ・高齢化に対応した福祉・介護産業への支援 ・地元産品や資源を利用した特産品の開発	① ア)慶応義塾大学先端医科学研究所・日本健康開発財団との飲泉エビデンス調査など イ)重炭酸入浴剤の製造・販売企業の進出協定 ウ)ANAセールス株式会社との温泉療養を核とした協力協定提携	・入浴・飲泉の医科学エビデンス調査の継続 ・温泉利用型健康増進施設の認可要件緩和に伴う申請及び認可 ・温泉利用指導者、健康運動指導士の人材育成とプログラム提供 ・温泉療養プログラム等の健康づくり事業の推進
19	②地域資源を活かした産業振興 ・特産品を活用できる食品製造業の誘致・支援 ・6次産業化による新商品開発や販路拡大 ・インターネット販売などICTを活用した販売システムの構築	② ア)農産加工開発の検討	・農産加工開発研究活用支援事業を創設

No.	◆総合戦略記載事項	◆取組実績	◆今後の計画
20	③商工業の活性化 ・出店希望者と所有者のマッチング事業推進 ・空き店舗の利活用による創業支援 ・ICT活用による新サービスの創造	③ ア) まちづくりたけた(株)による空き店舗調査を実施 イ) 空き店舗を利用した「チャレンジ・ショップ事業」の検討	
21	(3)農林畜産業の振興による竹田ブランドの確立 ①新規就農者の育成支援 ・農業ビジネススクールへの支援強化 ・マネジメントできる若手リーダーの育成 ・自立できる農業経営の指導・育成 ・親元就農者への支援 ・農業後継者の子育て支援(出産・育児中の労働力支援等)	① ア) トレーニングファーム「とまと学校」の募集～独立支援 1～3期生のべ11名が独立就農 イ) 起業的農家の育成のため簿記講座の実施(全15回講座)	・H28～4期生3名研修開始 ・親元就農支援給付金事業の開始 ・農業後継者雇用安定事業の開始(労働力支援) ・地域育成型就農システムの導入
22	②企業との連携 ・企業の農業参入の推進 ・農業の企業化の推進(ノウハウ導入) ・進出企業と連携した地域ブランドの確立	② ア) 誘致企業と連携したイベント開催	・キリンと連携した新たなブランド戦略の実施 ・加工野菜の契約栽培推進
23	③農商工連携によるブランド化の推進 ・竹田版複合型アグリビジネスの展開 ・魅力ある竹田ストーリーを付加した「知産知消」の取組の拡大 ・有害鳥獣対策を推進するための特産品の開発支援 ・「わかば等」を拠点とした流通販路の拡大やPR	③ ア) 銀座のかぼす収穫祭、茨城農業祭など竹田産農産物の広報活動 イ) 鳥獣害対策として、集落環境対策・防護柵の設置など実施 H27新たに、市独自にイノシシ猟奇内補助、シカ猟機内補助の増額	・ジビエ加工所の建設協議 ・「日本一ブランド戦略プロジェクト」の立上げ カボス、しいたけ、サフラン
24	(4)若者や女性、高齢者の雇用機会の創出 ①若者の就労支援 ・高性能機械の導入等労働環境改善による魅力ある就労形態への支援 ・新規・親元就業者への支援 ・第三者継承システムの構築		
25	②ライフスタイルに柔軟に対応した労働環境の整備 ・女性の就労支援と多様な就労機会の創出 ・アクティブシニアの知見を活用する就労の支援	② ア) 緊急雇用創出事業を活用し就労機会を創出 イ) シルバー人材センターと連携し高齢者就労機会創出(会員募集)を実施	・市の単独事業分は継続 ・多様な技術をもちあわせたアクティブシニアを継続的に募集、知識・技術の活用場の提供
3. 地域力を輝かせて農村回帰の流れを加速させる			
(1)若い世代(子育て世代)の定住促進			
26	①子育てしやすい住環境の整備 ・子育て定住促進住宅制度の充実 ・既存住宅のリフォーム助成事業等住みやすい環境づくりの推進	① ア) 全6棟中、2棟について入居者移動(小学生数H27.4月5名・H28.4月6名)	
27	②竹田の良さを活かした魅力的な宅地分譲の促進 ・予約型住宅分譲地の開発 ・竹田IC周辺の住宅宅地分譲の促進		
(2)農村回帰の推進			
28	①農村回帰支援体制の充実 ・田舎暮らし相談会、支援体制の強化 ・移住者(希望者)と地域住民の交流機会の創出 ・お試し田舎暮らし体験事業の充実	① ア) 移住相談会の実施(東京6回、京都1回、福岡1回)137件	・おためし移住空き家改修事業の実施
29	②既存ストック(空き家等)の有効活用 ・空き家の適正な再生利用の促進 ・UIターン希望者への移住支援事業の強化 ・民間事業者や大学と連携したリノベーションの取組促進	② ア) 空き家バンク物件新規登録19件 イ) 新規利用登録希望者数108世帯 ウ) 新規契約18世帯44名(空き家バンク)	・NPO空き家サポート大分との連携を検討 ・新規にUターン者への住環境整備に対する支援制度創設
30	③移住定住を促進させる情報発信の強化 ・「空き家バンクシステム」の普及拡充 ・食や特産品等“竹田魅力”とコラボした情報発信による移住事業の推進 ・ICTやメディア等多チャンネルを活用した世界発信	③ ア) 移住促進プロモーションムービー作成(3分youtubeにて配信中)H28.7.月末再生回数6000回	・空き家バンク登録物件に付随する農地取得面積の下限を引き下げ

No.	◆総合戦略記載事項	◆取組実績	◆今後の計画
	(3)温泉資源活用による新たな観光戦略と滞在型観光交流の促進		
31	①湯治文化を活かした保養温泉地づくり ・温泉療養保健システムの普及拡大 ・温泉利用型健康増進エリアのモデル事業の推進や拠点施設(ミニクアハウス等)の整備 ・国民保養温泉地としての長期滞在者の受入促進や環境整備	① ア)平成27年度実績 パスポート発行1,087件 給付763人 平均宿泊数5.3泊 イ)ミニクアハウス基本設計樹立、温泉入浴指導員32名取得 ウ)長期滞在体験プログラムの提供(乗馬、押し花、手びねり人形、和菓子、ウォーキングなど)	・温泉力をテーマにしたプロモーション(パンフ、広告など) ・温泉利用型健康増進施設(連携型)の認可取得 ・温泉利用指導者等の有資格者の人材育成と確保
32	②地域ごとのニーズを捉えた多様なツーリズムによる交流機会の創出 ・おもてなし事業によるサービスの向上 ・新たな観光コンテンツの開発 ・観光消費の増につながる魅力品(飲食・土産等)の開発 ・観光資源としての歴史・芸術・文化(財)の保存と素材磨き ・広域連携による誘客対策	② ア)ガイド養成講習会(阿蘇くじゅう観光圏事業) イ)大船山観光登山バス、岡城跡登城バスの運行開始、ウェイクボード施設の運用開始 ウ)阿蘇くじゅう観光事業 エ)竹田ちゃんぽん、食マップなどの情報発信 オ)Drum TAOとの観光誘客事業	・温泉療養プログラムの開発及び提供 ・広域連携による阿蘇くじゅう観光圏事業の強化(ナショナルパーク事業) ・ガイド養成講座等による人材育成 ・おもてなし講習会等によるサービス向上事業
33	③インバウンド(海外誘客)への対応 ・国内外客の受入体制の整備(多言語観光案内機能・「Wi-Fi」スポットの整備) ・旅行会社と密接に連携した誘致の促進	③ ア)フリーWiFiスポットの整備(道の駅3、観光案内所3、農泊施設9) イ)国際観光案内所の設置	・WiFiスポットの整備 ・多言語化観光案内の充実、パンフ等の整備
	(4)竹田ブランドを高める情報戦略		
34	①魅力的な情報コンテンツづくり ・ブランド力のある企業・人材とコラボした新情報発信戦略 ・インテリジェンス情報システムの構築(産学官連携を含む) ・全国主要都市にある竹田事務所を活用した広報活動や情報発信の推進 ・「有由有縁」による人から人へ“竹田ファン”づくり ・ふるさと納税を通じたふるさと発信	① ア)平成26年度からキンピールとパートナーシップ協定を結び丁寧な暮らしの発信。ANAセールス株式会社と協力協定を締結し、ヘルスツーリズムの推進を中心に連携。 イ)看板標記の多言語翻訳システムの導入について、大分大学と共同研究開始。 ウ)東京オフィスでの勉強会や地方創生トップセールスを東京事務所を拠点に実施。仙台事務所においても温泉シンポジウムを共催。 エ)ポータルサイト“ふるさとチョイス”の活用を開始。寄附件数833件、寄付金額24,706千円(H26年寄附件数30件、3,350千円)	・キンピールのふるさと納税返礼品取扱い、ANAからの人材派遣などで竹田ブランドの向上を目指す。 ・岡城を中心に看板標記の多言語翻訳システムの導入に向けて継続的に共同研究を実施。 ・竹田事務所を活用したイベントのSNS広報などにより、新たな層に竹田市の情報をリーチさせていく。 ・返礼品のラインナップや紹介の方法を見直し、魅力の発信と寄付額の増に努める。
	4.コンパクトシティを構築し、集落機能(暮らし力)を高める		
	(1)竹田市版コンパクトシティの推進		
35	①各地域ならではのコンパクトシティの構築 ・居住施設環境の整備 ・民間賃貸住宅の建設促進 ・歴史的風致等活かした地域拠点の整備	① ア)民間活力の導入を目指したPFI事業による住宅整備の企画、着手 イ)「商店街まちの駅整備事業」に併せ、民間賃貸住宅建設の検討	・竹田地域と荻地域においてそれぞれ10~20戸の集合住宅を計画
36	②城下町再生プロジェクトの推進 ・新竹田市図書館の整備・市民活動拠点化の推進 ・新竹田市文化会館及び周辺の整備・活用の推進 ・竹田市コミュニティセンター整備の推進 ・芸術文化の振興及び組織育成の推進 ・歴史的町割りの保存と整備	② ア)歴史的町割り保存と整備として4件の修景を実施 イ)コミュニティセンター部会を1回開催。歴史資料館と一体となった整備について研究	・建設予定地の文化財試掘調査。28年度中に歴史資料館と一体となった基本設計と実施設計作成。
37	③中心市街地の活性化 ・商店街まちの駅整備事業の推進 ・“竹楽”ブランドを活かした年間を通じた賑わい創出事業	③ ア)商業計画、管理運営計画、収支計画の検討	
	(2)「小さな拠点」の形成		
38	①暮らしのサポートセンター事業の推進 ・「暮らしのサポートセンター」設置の促進・地域内への周知活動 ・生活支援サービス制度の定着化 ・暮らしのサポーター等、地域リーダー養成の充実	① ア)暮らしのサポートセンター新規開設(H27、2カ所) イ)生活拠点数H26(4カ所)→H27(6カ所) ウ)生活支援件数H27(341件)→H27(443件)	
39	②道の駅機能拠点強化事業の推進 ・地域の人々や観光客がより立ち寄りやすい施設の整備と購買意欲の増進 ・観光総合窓口としての付加機能強化	② エ)暮らしのサポーターH26(465人)→H27(769人)	

No.	◆総合戦略記載事項	◆取組実績	◆今後の計画
	(3)連携中枢都市圏による広域連携と中心部・周辺部のネットワーク化の推進		
40	①大分都市広域圏・連携中枢都市圏による経済・生活圏の向上 ・大分都市広域圏・連携中枢都市圏による広域連携の促進	① ア)大分都市広域圏連携協約締結7市1町(大分・別府・臼杵・津久見・豊後大野・由布市・日出・竹田)	大分都市広域圏ビジョンに沿った連携事業の協議及び実施
41	②広域交通ネットワークの推進 ・「中九州自動車道」を活用した地域連携		
42	③地域公共交通の利用促進 ・竹田の地形にマッチした地域公共交通の新たな利用促進	③ ア)大分県豊肥圏地域交通再編実施計画の推進	ア)竹田市地域公共交通網形成計画の策定
43	④ネットワークコミュニティの推進 ・情報化の強化による繋がる地域づくり ・ICTを活用した見守り支援等、暮らす力の向上支援 ・高齢者等の安心ネットワークの拡充	④ ア)高齢者等の安心ネットワーク登録H26(61人)→H27(65人) イ)IP緊急通報装置の設置H26(35件)→H27(32件)	
	(4)地域コミュニティの再構築		
44	①集落機能維持の仕組みの再構築 ・官民協働での自治会組織の支援 ・地域の賑わいの拠点づくりと支え合う仕組みづくりの推進 ・伝統的文化等の継承 ・集落機能維持の仕組みの検討調査	① ア)自治会連合会組織による住民主導の組織運営を研修 視察先:鹿児島県鹿屋市「やねだん集落」 イ)自治会現況調査の実施 ウ)集落機能の仕組みを検討するため先進地視察の実施	
45	②地域防災機能の強化 ・自助・共助による自主防災機能の強化 ・ニーズにマッチした消防団等の防災組織の再編強化	② ア)生きがいサロンへ訪問し防災意識の普及啓発	